

5/6 福井

コロナ変異株

新型コロナウイルスの変異株の中で、オミクロン株のように従来株やアルファ株などとは性質が異なり、流行に大きな影響を与えるウイルスは、今後も数年に1度の割合で出現するとの試算を、京都

大の西浦博教授(感染症医学)らのチームが5日までにまとめた。ワクチンは従来株に合わせており、オミクロン株に対しても効果が弱まる。

これが分かっている。西浦氏は「大きな変異を持ったウイルスが数年に1度のペースで現れるのであれば、変異株に合わせたワクチン開発も有効だろう」としている。

オミクロン株の遺伝情報に基づいて、新たな変異株がどのよ

うに現れるかを試算した。不規則に出現する場合や感染者数に比例して起りやすくなる場合など3通りの条件を設定。その結果、最も現状

出現頻度 京大教授ら試算

ワクチン開発が課題

は、アルファ株、デルタ株と比べて大幅に異なる変異があり、重症化しにくく、感染スピードが速いなど性質も大きく変化した。

ワクチンは従来株に合わせて開発されており、オミクロン株に対しては効果が弱まる。

年11月に発生し、21年11月にオミクロン株が現れると仮定。さらに5カ月がたった時点で新たな変異株が発生していないという前提で、オミクロン級の大規模な変異を持つたウイルスが、どれくらいのペースだった。

新たな変異株がどのよ

うに現れるかを試算した。不規則に出現する場合や感

染者数に比例して起りやすくなる場合など3通りの条件を設定。その結果、最も現状